

えべつの未来づくりミーティング

～ 地域の医療・介護に携わる方編 ～

令和4年7月21日（木） 江別市民会館3階37号室

午後6時30分～午後8時40分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・初めて江別市に来た時、臭いと思ったこと、仕事で家庭を訪問する際、アパートの人でも表札を出していない市民が多いと思った。強みは、大型スーパーマーケットや店舗が多いこと。弱みは、札幌市に近いので、患者が札幌市に流れてしまうこと。また、去年の大雪で建物がつぶれたこともあるが、JR江別駅周辺に空き地が多く、再開発が必要なのではないかと思う。



・強みは、介護保険内・保険外ともに、支援サービスがそれなりに整っていること。地域活動が盛んな印象がある。社会福祉協議会が実施している愛のふれあい交流事業も各地区で実施率が高い。サロンやサークルも多くの団体が参加している。コロナ禍でも、マンションで女子会を開催したり、ウォーキングをする会を立ち上げたりしている。大麻地区は、カーリンコン（床で行うカーリングのようなスポーツ）が盛んで、サークルがいっぱいあり、大会が開催されているなど、コロナ禍でも活動の火が消えないところが強みだと思う。弱みとして、現場の本音を言わせてもらうと、ケアマネジャーのなり手がいない、または続かないことや、ヘルパーが少なく、要支援の利用者宅に入ってもらえないことがある。障がい者の高齢化が進む中、在宅での生活が厳しくなった高齢者が入所できる施設が少ないことも課題。また、生活支援スタッフや介護予防サポーター、認知症サポーターなどを市で養成しているが、その人たちを活躍させる仕組みが十分ではないと感じている。みなさんのやる気はあるのに、有効に活用されていない。その人たちにも、メリットやモチベーションを感じてもらえるようになってきたら良いと思う。



・強みは、札幌市に近いこと。一方、医療機関は札幌に行けばあるという考えになるので、弱みとしても捉えられる。江別市は札幌市より人口が少ないが、まとまりやすい規模だと思う。江別市のコロナ対策は、非常にスピーディに対応していて最高だった。大学生が多く、子ども食堂などを研究の一環としてやっていることも強みだと思う。自然が多く、農業が活発だが、高齢化が進んでいて、後継者不足が弱みになっていると思う。それから、大泉洋の出身地であることは強み。また、日本の福祉制度が整う前に、江別市にあるレンガ工場では、福祉的な助け合いが行われていたことなど、江別市にはPRされていない良さがまだ多くあるので、もっとPRした方が良い。災害については、子どもの頃は水害に苦しめられていたが、津波が来ないことは強みだと思う。雪については、雪が多いので除雪はもっと対応してほしい。また、空きアパートが多くあるので、住めるのであれば、活用を検討してほしい。高齢者や障がい者が入居できるように空きアパートを活用することもできるのではないだろうか。

・強みは、札幌市がとても近いが、土地が安くて家が建てやすかったこと。区画も広がった。住んでみて思うのは、自家用車があれば、大きなショッピングセンターがあるので、便利だと思う。弱みは、雪。除雪が問題というより、降雪量が多い。そして風が強く、物干し台が倒れたり、車庫がひっくり返ったりしたことがある。ただ、比較的平らなまちなので住みやすいと思う。医療の立場から見ると、いろんな医療機関がまんべんなく揃っていることが強みだが、人材を集めるのに苦労することは弱み。若い人た

ちはどうしても札幌志向なので、江別市で働いてもらえず、悔しい思いもしている。

・江別市のブランディングとして、何を狙っているのかが見えにくいので、売り出したいものを決めておいた方がよいのではないかと思う。小麦であれば六次産業化を進め、風が強いのであれば風力発電、川を使った水力発電を進めて、食料やエネルギーの自給率を上げて長期的な住み良さをアピールするなど。ふるさと納税にも、小麦が出てこないことが残念。

・江別市に住んでいて、困ることがないことが強みだと思う。自分の夫や子どもは、昼間は江別市にはいない。やはり、ベッドタウンで売り出したらよいのではと思う。土地が安いほか、JR江別駅周辺の土地も空いているので、マイナスイメージである空き地を生かして、転入を促進してはどうかと思う。また、スキー場にも30分程で行くことができるし、江別市周辺に温泉がたくさんあって、温泉も楽しめる。弱みは、雪もそうだが、観光客が少ないことだと思う。札幌市でコンサートがあって、札幌市内に泊まれない人は、岩見沢市に泊まる。北海道立野幌総合運動公園で大きなスポーツ大会があっても、札幌市などに宿泊する。町村にはよく、おしゃれな民泊があるが、江別市にはない。誰もが一度は泊まってみたいと思うような、おしゃれな宿泊施設があれば、レンガ工場ツアーなどもできるのではないだろうか。また、急性期医療については、江別市内では完結できないが、急性期医療を終えた後、江別市に戻って来られるような医療環境が整っていれば良いと思う。



・強みは、札幌市に近いところ。JRを利用すれば15分～30分で札幌市に行くことができるし、江別市内には国道も通っている。ベッドタウンとしてのメリットはかなりあるのではないか。札幌市に近く、宅地造成が進んだことで、子育て世代の転入が増えたことも強みだと思う。また、市内に四つの大学があり、卒業後に出て行ってしまう状況も見られるが、他市町村では、そもそも出て行くばかりのところも多いので、江別市は、一時的ではあるが市外から学生を集めることができるのは強みだと思う。弱みは、勤務先が札幌市の人が多く、江別市内に働く場所が少ないこと。そのため、法人税が近隣の他市に比べて少なく、江別市が独自に事業を行いにくい状況ではある。

2 10年後の地域医療・介護の在り方について

・近い将来の話として、インフルエンザと新型コロナウイルスが同時に流行することがあると思うので、市民が困らない体制をつくってほしい。秋には混在して流行すると思う。発熱外来などに力を入れてほしい。三次医療になると市外の医療機関に頼らざるを得ない状況だが、江別市立病院に是非もっと活躍してほしい。江別市内には他の医療機関もあるが、江別市立病院に頑張ってもらいたい。また、若い薬剤師がなかなか増えないので、関係機関と連携して増えるようにしていきたい。

・少子高齢化が進み、介護保険制度も厳しくなってくるので、インフォーマルなサービスを充実させれば、高齢者も住みやすいまちになるのではないかと思う。インフォーマルなサービスならば、使いやすく、サービス提供者もモチベーションを持って活動しやすい。市も団体に任せるのではなく、側面的にサポートするなど、利用者・支援団体・サポートする側、三者にとって良い状態となる仕組みをつくってほしい。外来の患者数が減少しているが、江別市立病院もブランディングして、良さを前面に押し出してアピールできたら良いのではないかと思う。江別市立病院で認知症疾患医療センターを立ち上げてくれたことは、今後、認知症の方が増えていく中、良いことだと思うので、もっとPRすべきだと思う。また、今後は、施設医療だけでなく、在宅でのケアが大事になってくるので、在宅医療に力を入れてほしい。





・子どもたちや若い保護者への支援をしていて、子育て世代の転入が増えている状況を見ると、小児科の充実が大事だと思っている。在宅医療の10年後を考えると、今の先生方も高齢化しているのではないだろうか。制度が変わって、長期入院が難しくなり、施設にも限りがあり、コロナ禍で高齢者が施設に閉じ込められているような状況を見ると、やはり在宅で生活できることが大切であり、インフォーマルな支援や空き家の活用を考えていくのが良いのではないかと思う。障がい者の方たちも高齢化していて、行く末が心配。健全者と同じように、地域で過ごせるようなまちづくりを進めてほしい。

・江別市で、地域医療と介護の連携の場を設けていることは重要であり、連携による効果が生まれ、より良くなることを願っている。市外から若い人たちが転入してきているが、その前に転入してきた世代の方々が高齢化してくるので、在宅医療の需要はますます高まると思う。高齢者の方々の住まいについて、江別市として、もっと取り組んでほしい。

・どの分野も人材が不足するので、どう対応していくかを考えると、選択と集中が必要なのではないかと思う。デイサービスが減ると、通う場所が減るので、今ある場所を大規模化していかなければならないが、基準をクリアしないと大規模化できない。基準緩和を市独自に行うことを考えておくことが必要ではないだろうか。また、訪問介護ステーションの数は増えておらず、職員数が減っている。このままでは、サービスが受けられないのに保険料を払うのかという苦情が出かねないので、人を増やすこと以外の準備が必要なのではないか。また、医療については札幌市と同じ医療圏なので、高度医療を札幌市と同じように頑張ろうというのは現実的ではないと思う。高度医療を受けた後のリハビリ機能を整えていくことが必要だと思う。また、これから災害時要援護者に関する避難支援計画を江別市が策定すると思うが、福祉施設に対して避難所の依頼をしても、自分の施設の利用者を、停電が起きているかもしれない中で介護する状況の中、一般の要援護者を受け入れてほしいと言われても、抵抗感があると思う。ヘルパーを避難所に派遣できるルールをつくるなど、災害時対応の準備を進めることも考えられる。移動支援については、JRやバスもあるが、もう少し小回りの利く交通施策を考えても良いのではと思う。介助を必要とする方にとっては、介護タクシーのようなものになるので、バス・タクシー事業者との調整が難しいかもしれないが、共同体として運営することも検討してほしい。



・医療介護の連携の会議については、もう少し現場レベルに近い会議があると良いと思う。介護側は、医療側に対してももの言いづらいのかと感じることがあり、それではなかなか連携が進まないのではないかと思う。看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなど現場の方々で意見交換ができると、連携できる部分が増えるのではないかと思う。また、在宅医療が増えるという見込みだが、人によっては病院で最期を迎えたいという人もいる。人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)の場を家庭で持ってほしいと思うので、会議が普及するように働きかけてほしい。また、医療的ケア児を受け入れることができる訪問看護が江別市にはなく、札幌市から来てもらっていた。高齢者だけでなく、医療的ケア児が在宅で暮らせる、また、地域で見ているような10年後になったら良いと思っている。

3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

・職場がJR江別駅周辺だが、学生をほとんど見ない。江別地区では、やきもの市や地域の祭りがコロナ禍で中止になり、過疎化が進んでいる。表札を出さない世帯が多いということは、地域に馴染んでいない人が多いのではないかと思う。大学生と一緒に地域おこしをするなど、何かイベントがあれば地域の人も参加できて良いのではと思う。また、風が強いので、風力発電に取り組みないだろうか。

・認知症対策に力を入れてほしい。認知症になっても住み続けられる、弱者にやさしいまちになってほしい。弱者にやさしいまちは、誰もが住みやすいまちにもなる。江別市は、いろいろなものがバランスよく揃っており、子どもから学生、お年寄りまで各世代が多くいるので、協働によって、支えたり、支えられたりできたら良いのではないかと思う。

・お金がないと何もできないので、企業誘致が必要。江別市の魅力をどうアピールしていくか。江別地区に住んでいるが、昔に比べて、とても寂しくなっている。地域の活性化は地域でしなければならないと思い、認知症サポーター養成講座をお寺で開催しようと思っている。そのような地域活動の後押しを江別市にも手伝ってほしい。



・人が増えてくれると有難い。企業が来るのはなかなか難しいと思うので、札幌市のベッドタウンとしての機能を高めていくべきではないかと思う。観光も難しいと思うが、トンデンファームや町村農場、江別蔦屋書店など、人気のある観光スポットもある。ただ、観光スポットが増えすぎると、治安も悪くなると思うので、ベッドタウンの方が地の利に合っているのではないかと思う。公園も多く、子育てもしやすいと思う。ベッドタウンとしての良さを売りにして、新しく家を建ててくれる人が増えたら良いと思う。若い世代が増えれば高齢化率も抑制され、別の分野も伸びていくのではないか。

・大学が四つあり、専門分野がそれぞれ違うことが特色だと思う。江別市は、やはり農業で勝負するまちだと思うので、酪農学園大学とコラボした何かができないだろうか。企業誘致が難しくても、起業を支援し事業を起こしやすくするなど。また、北翔大学ならば介護予防、北海道情報大学とはICTのリテラシーの普及をコラボで取り組む。民生委員にスマホを貸与して、地元をまわってスマホの使い方を教え、大学生がそれを支援するなど。また、身寄りのない高齢者が亡き後の相続について意識を高めるようにすることも重要だと思う。今後出てくる課題を整理して、前もって対処や準備を進めていくことが大事だと思う。

・福祉・保健・医療を進めるために協働を進める。ヘルパーが入りやすいように基準や条件を緩和させるなど。そこに医療が入っていけるように連携を進めることが大事だと思う。

・江別市は、北海道の中でも、人口減少を遅らせることができるポテンシャルを持った、数少ないまちだと思う。都市基盤の整備を進め、若い人が選んでくれるまちになることで、働き手が市内に多くいることで企業誘致が進み、税収が増え、さまざまな世代の方や、障がいを持つ方への支援につなぐことができたらと素晴らしいと思う。

